

Oracle Internet File System for UNIX Systems

リリース・ノート

リリース 9.0.2

2002 年 11 月

部品番号 : J06504-02

Oracle Internet File System for UNIX Systems リリース・ノート, リリース 9.0.2

部品番号 : J06504-02

原本名 : Oracle Internet File System Release Notes, Release 9.0.2 for AIX-Based Systems, Compaq Tru64 UNIX, HP 9000 Series HP-UX, and Linux Intel

原本部品番号 : A97357-01

Copyright © 1999, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	vii
リリース・ノート構成について	vii
マニュアルに記載されている名称について	vii
英語オンライン・マニュアルの扱いについて	vii
最新情報の入手について	vii
 1 日本語環境での使用上の注意	
Java ツールにおける日本語表示の問題について	1-1
Oracle9i Real Application Clusters について	1-1
基本 / 拡張レプリケーションについて	1-1
Oracle Fail Safe について (Windows 版データベースのみの機能)	1-1
共有サーバー接続について	1-1
Oracle9iAS Cluster について	1-1
クライアント・ソフトウェアについて	1-2
コマンドライン・ユーティリティについて	1-2
Netscape 固有の制限事項について	1-2
電子メール・サーバー機能について	1-3
AFP (AppleTalk Filing Protocol) サーバーのログについて	1-3
旧リリースからのアップグレードについて	1-3
Oracle9iAS Portal からの Oracle 9iFS へのアクセスについて	1-3
Oracle Universal Installer の「サマリー」ページについて	1-3
ユーザー名およびパスワードについて	1-3
Oracle 9iFS Manager の「検索」ダイアログ・ボックスについて	1-4
Web ブラウザのステータス・バーにおける文字化けについて	1-4
Web インタフェースのドラッグ & ドロップ用ウィンドウについて	1-4
デフォルトのキャラクタ・セット設定について	1-4
ifsmigratepasswords の入力パラメータについて	1-4
日本語 Quick Tour について	1-5
WebUI からのユーザーの作成および削除について	1-5
Oracle Enterprise Manager Web Site における日本語ヘルプの表示について	1-5
IFSHELL のヘルプで表示されるコマンド名について	1-5
Oracle Text 用表領域に関するマニュアルの訂正	1-6
Oracle Internet Directory (OID) のデフォルト・ポート番号に関するマニュアルの訂正	1-6
対応ディストリビューションについて (Linux)	1-6
全文検索機能 (Oracle Text) を使用する場合の注意 (Linux)	1-6
Tru64 UNIX 版 Oracle 9iFS Manager のメモリ不足について	1-6
Oracle 9iFS SDK サンプル・プログラムについて	1-7

oracle.ifs.adk.mail パッケージについて	1-7
Web ユーザーインターフェースのカスタマイズについて	1-7
オブジェクト名に関する制限について	1-7
Oracle Partitioning の使用について	1-7
レンダラの実装について	1-7
Oracle 9iFS イベントについて	1-7
getServerName() メソッドについて	1-7
日本語環境における Oracle Text の制限について	1-8
サンプル・プログラム「PropertySettingServlet.java」について	1-8
サンプル・プログラム「SimplestParser.java」について	1-8
サンプル・プログラムで使われている推奨されない API について	1-8
JDBC ドライバに関するマニュアルの訂正	1-8
Oracle Internet Directory (OID) で必要なクラスパスについて	1-8

2 Oracle Internet File System リリース・ノート

概要	2-1
変更点と新機能	2-2
Oracle9i Application Server との統合	2-2
AppleTalk Filing Protocol (AFP) のサポート	2-3
対応クライアントとシステム要件	2-3
対応クライアント	2-3
Oracle 9iFS Java API での推奨されていない機能	2-4
コレクションの改善	2-4
サービス構成プロパティのデリミタの変更	2-5
interMedia メソッド	2-5
構成に関する問題	2-6
Oracle Internet Directory および Oracle 9iFS に関する問題	2-6
IfsDefault.properties に関する問題	2-6
Oracle9i Application Server の「Unified Messaging」インストール・タイプ	2-6
一般的な問題	2-7
Sendmail との統合	2-7
Oracle 9iFS の 'analyze.sql' スクリプトの実行	2-7
Oracle 9iFS のユーザー名におけるマルチバイト・キャラクタ使用の制限	2-7
Oracle Internet Directory に関する問題	2-8
特定のプロトコル・サーバーでの Oracle 9iFS 固有のパスワードの使用	2-8
Oracle Internet Directory のユーザー移行ツールの使用	2-8
Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーの実行による Oracle Internet Directory の変更ログのページ	2-9
Oracle Text に関する問題	2-9
Oracle Text による索引付けの監視	2-9
検索タイムアウト・パラメータ	2-9
クライアント固有の問題	2-10
NFS クライアントでの NFS キャッシュ	2-10
Oracle 9iFS NFS: UNIX Nobody ユーザーと 9iFS NFS Guest ユーザー間のマッピング	2-10
Oracle 9iFS FileSync ユーティリティに関する問題	2-10
Web UI に関する問題	2-11
マニュアルに関する問題	2-11
Oracle 9iFS ドメインおよびノードのコマンドラインからの開始および停止	2-11
最小メモリ要件	2-11

既知の問題	2-12
Configuration Bugs	2-12
Administration Bugs	2-14
AFP Bugs	2-16
E-mail Bugs	2-16
Generic Oracle 9iFS Bugs	2-17
HTTP Bugs	2-18
Web Interface Bugs	2-18
Windows / SMB Bugs	2-21
Windows Utilities Bugs	2-21
XML Bugs	2-22

はじめに

リリース・ノートについて

このリリース・ノートの第2章は英語リリース・ノートの翻訳版です。日本語環境固有の情報については、第1章を参照してください。

マニュアルに記載されている名称について

「Oracle 9iFS」および「9iFS」は、Oracle Internet File System の略称です。また、Oracle9i 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル内で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

英語オンライン・マニュアルの扱いについて

CD 媒体上の英語のマニュアルと同一のマニュアルが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

最新情報の入手について

日本オラクルでは、インターネット開発者向けのあらゆる技術リソースを、24 時間 365 日提供するコミュニティ・サイト OTN-J (Oracle Technology Network Japan) を運営しています。OTN-J では、最新の技術情報、オンライン・マニュアル、ソフトウェア・コンポーネントなどを、無料で入手できます。

<http://otn.oracle.co.jp/>

また、最新のセキュリティ情報については、次のサイトを参照してください。

<http://www.oracle.co.jp/news/security/>

日本語環境での使用上の注意

Java ツールにおける日本語表示の問題について

Oracle 製品では、Java Runtime Environment (JRE) を使用します。プラットフォームに JRE が使用する日本語フォントが正しく設定されていない場合、JRE を使用した Oracle 製品で日本語が正しく表示されないなどの問題が発生します。

一般的なフォントの設定方法には、次のものがあげられます。

- JRE で必要なフォントをインストールする
- Xserver のフォント・マッピング設定機能を使用する
- `font.properties` を変更する

フォントの設定方法の詳細は、各プラットフォーム・ベンダーにお問い合わせください。

Oracle9i Real Application Clusters について

Oracle9i Real Application Clusters を使用したクラスタ環境では、このリリースの Oracle 9iFS の使用はサポート対象外です。

ポート対象外です。

基本 / 拡張レプリケーションについて

このリリースの Oracle 9iFS では、Oracle 9iFS リポジトリに対して RDBMS のレプリケーション機能を使用することはできません。

Oracle Fail Safe について (Windows 版データベースのみの機能)

このリリースの Oracle 9iFS では、Oracle Fail Safe 構成のデータベースを Oracle 9iFS リポジトリ・データベースとして使用することはできません。

共有サーバー接続について

このリリースの Oracle 9iFS では、共有サーバ接続で Oracle 9iFS のリポジトリ・データベースに接続することはサポートされません。Oracle 9iFS のリポジトリ・データベース接続は必ず専用サーバ接続で構成する必要があります。

Oracle9iAS Cluster について

このリリースの Oracle 9iFS では、HTTP ノードやカスタム 9iFS アプリケーションの実行において、Oracle9i Application Server Release2 のクラスタ機能を使用することはできません。

クライアント・ソフトウェアについて

Oracle 9iFS でサポートされるクライアント・ソフトウェアは、次に示す動作検証済日本語版ソフトウェアとの互換の範囲内に限定されます。次のリストにないクライアント・ソフトウェアをご利用いただくことも可能ですが、特定クライアント・ソフトウェアでのみ発生する固有の問題には対応できない場合があります。

- Microsoft Windows クライアント (SMB、Oracle 9iFS Windows ユーティリティおよび Web インタフェース用)
 - Windows NT 4.0 Workstation および Server (Service Pack 6 以上)
 - Windows 98
 - Windows 2000 Professional および Server
- Web ブラウザ (FTP、HTTP および Web インタフェース用)
 - Netscape Communicator 4.72 以上 (Netscape 6.x は、このリリースではサポートされません。)
※ Mac の場合、Netscape Communicator 4.73 以上 (Netscape 6.x には対応していません。)
 - Microsoft Internet Explorer 5.0 および 5.5 (Internet Explorer 6.0 はサポートされません。)
- WebDAV クライアント
 - 前述の Windows オペレーティング・システムの Web フォルダ
- FTP クライアント
 - 前述の Windows オペレーティング・システムの標準 FTP コマンド
 - 本リリースの 9iFS の動作要件に含まれるオペレーティング・システムに標準搭載の FTP クライアント
- NFS クライアント
 - 本リリースの 9iFS の動作要件に含まれるオペレーティング・システムに標準搭載の NFS クライアント
- AFP クライアント
 - Mac OS 9.0.4、Mac OS 9.1 および Mac OS X

コマンドライン・ユーティリティについて

このリリースの Oracle 9iFS では、Windows 98 クライアントでのコマンドライン・ユーティリティの使用はサポート対象外です。

Netscape 固有の制限事項について

Oracle 9iFS の Web インタフェースを、Netscape Communicator を Web ブラウザとして使用した場合、次の制限事項があります。これらはスタイルシートや UTF-8 文字コードの処理における Netscape 側の問題に起因する制限です。

- ヘルプ・ウィンドウ内で日本語文字列が正しく表示されない場合があります。この場合、次のように設定を変更することで解消されます。
 1. 「編集」メニューから「設定」を選択します。
 2. カテゴリ欄の「表示」ツリーから「フォント」を選択します。
 3. 右側の設定項目で「ドキュメント指定のフォントを無視して、設定したフォントを使用」を選択します。
 4. 「OK」をクリックして設定を保存し、再度アクセスします。
- ウィンドウの大きさに関わらず、テキスト・ラベルが不正な位置で折り返して表示される場合があります。

- アイコンをマウスで指した際に表示されるバブル・ヘルプ内で、文字化けや不正な文字揃えが発生します。
- ドラッグ&ドロップでファイルをアップロードする際に表示されるウィンドウ内で、日本語オブジェクト名が文字化けします。
- 参照してファイルをアップロードする際、ファイルパス（ファイル名およびフォルダ名）に日本語が含まれたファイルのアップロードが行えない場合があります。
- ドラッグ&ドロップで、フォルダ単位のアップロードはできません。
- ファイル名に日本語が含まれたファイルを右クリックして保存する際、「リンクを名前を付けて保存 ...」で表示されるダイアログ・ボックス内のファイル名が文字化けします。
- 検索フィールドが正しく表示されない場合があります。

電子メール・サーバー機能について

このリリースの Oracle 9iFS では、IMAP4 および SMTP サーバー機能はサポート対象外です。

AFP（AppleTalk Filing Protocol）サーバーのログについて

AFP サーバーを経由してのファイルやフォルダ操作時に、`$ORACLE_HOME/9ifs/log/Node.log` に IFS-30619、または IFS-10201 の Exception が出力されます。

これは、Mac クライアント固有の問題で、ファイル、あるいはフォルダを操作する際、9iFS リポジトリに存在しないファイルやフォルダにアクセスするように試みるためです。その結果、上記ログ・ファイルに Exception は出力されますが、実際の操作には影響しません。

旧リリースからのアップグレードについて

本リリースでは、Oracle 9iFS リリース 9.0.1 からのアップグレードのみがサポートされます。リリース 9.0.1 より前のリリースからのアップグレードはサポートされません。

Oracle9iAS Portal からの Oracle 9iFS へのアクセスについて

Oracle9iAS Portal から Oracle 9iFS へのアクセスを行う場合は、ポートレットとして Oracle9iFS アプリケーションを作成する必要があります。

Oracle 9iFS を Portal の外部アプリケーションとしてアクセスすることはできません。また、このリリースの Oracle 9iFS に付属している Oracle 9iFS Portlet はサポート対象外です。

Oracle Universal Installer の「サマリー」ページについて

日本語環境で Oracle Universal Installer を起動しているにもかかわらず、「サマリー」ページでは製品の言語として「英語」と表示されます。これは表示の問題であり、実際は日本語がインストールされます。

ユーザー名およびパスワードについて

Oracle 9iFS で登録するユーザー名とパスワードに日本語や全角文字を使用することはできません。必ず半角英数字を使用してください。

Oracle 9iFS Manager の「検索」ダイアログ・ボックスについて

Oracle 9iFS Manager の「検索」ダイアログ・ボックスで、次の制限事項があります。

- 検索を実行後、「閉じる」ボタンでダイアログ・ボックスを閉じることができません。「閉じる」ボタンをクリックした後、「取消」ボタンをクリックすることにより、ダイアログ・ボックスを閉じることができます。
- 「CREATEDATE」、「LASTMODIFYDATE」、「EXPIRATIONDATE」などの日付属性を使用した検索は行えません。

Web ブラウザのステータス・バーにおける文字化けについて

Web インタフェースでファイル名に日本語が含まれたファイルをマウスで指した際、ブラウザのステータス・バーに表示されるファイル名が文字化けします。これは UTF-8 文字コードの文字列を正しく表示できないというブラウザ側の問題であり、Oracle 9iFS の動作には影響ありません。

Web インタフェースのドラッグ & ドロップ用ウィンドウについて

Web インタフェースでファイルをドラッグ & ドロップでアップロードする際に表示されるウィンドウは、ドロップ専用です。ウィンドウ内に表示されているファイルを操作することはできません。

デフォルトのキャラクタ・セット設定について

Web インタフェースでファイル名に日本語が含まれたファイルを正しく操作するために、Oracle 9iFS サーバーのデフォルト・キャラクタ・セットとクライアント・マシンのキャラクタ・セットを一致させる必要があります。デフォルト・キャラクタ・セットの値は次のいずれかで設定または変更可能です。

- Oracle 9iFS Configuration Assistant の「ドキュメントの内容」ページでの「キャラクタ・セット」
- Oracle 9iFS Manager の「管理者のタスク」から「サービス構成」を選択して表示される LargeServiceConfiguration、MediumServiceConfiguration および SmallServiceConfiguration の IFS.SERVICE.DefaultCharacterSet プロパティ

デフォルト・キャラクタ・セットについては、『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』を参照してください。

ifsmigratepasswords の入力パラメータについて

『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』の第 8 章の「ユーザーの資格証明情報の移行」で説明のある、ifsmigratepasswords で表示される「Migrate Passwords」画面での入力パラメータについての補足情報です。

注意：「Migrate Passwords」画面は、日本語環境では「パスワードの移行」画面として表示されます。

「Migrate Passwords」画面の「スキーマ」フィールドおよび「Where 句」フィールドでは、次のように入力してください。

- スキーマ：「発信元データベース情報」および「宛先データベース情報」セクションの各スキーマには、名前の後に \$CM を付けた形式でスキーマ名を入力してください。
たとえば、スキーマ名が IFSSYS の場合、「IFSSYS\$CM」と入力します。
- Where 句：「発信元データベース情報」セクションの Where 句には、資格証明を移行するユーザーの間合せ条件を入力してください。
たとえば、「where DISTINGUISHEDNAME = '<ユーザー名>」
または、「where DISTINGUISHEDNAME like '<ユーザー名%>」
と入力します。

日本語 Quick Tour について

Web インタフェースのログイン画面から起動可能な Quick Tour は英語版です。日本語版 Quick Tour は、パッケージに同梱されている「Oracle9i Application Server Release 2 (9.0.2) Update Kit CD-ROM」内に用意されています。Web インタフェースから日本語版 Quick Tour を起動するには、Oracle 9iFS 上の英語版 Quick Tour ファイルを日本語版 Quick Tour ファイルに置き換える必要があります。

例： SMB プロトコルを使用して置き換える場合

1. Windows エクスプローラで Oracle 9iFS 上の root フォルダをマウントします。(以降 X ドライブに割り当てたと仮定して説明します。)
2. 「Oracle9i Application Server Release 2 (9.0.2) Update Kit CD-ROM」を CD-ROM ドライブに挿入します。(以降 E ドライブが CD-ROM ドライブだと仮定して説明します。)
3. Windows のコマンド・プロンプトで、次のように HTML ファイルを上書きコピーします。

```
C:>copy "E:\ifs\qt\*.htm" "X:\doc\9ifs\Quick Tour\"
```

4. Windows のコマンド・プロンプトで、次のようにイメージ・ファイルを上書きコピーします。

```
C:>copy "E:\ifs\qt\Graphics\*.htm" "X:\doc\9ifs\Quick Tour\Graphics\"
```

WebUI からのユーザーの作成および削除について

リリース 9.0.2 より WebUI からのユーザー作成ならびにユーザー削除機能は廃止されました。

9iFS Manager または 9iFS SDK (Java API、XML 構成ファイル) を使用してユーザーを管理する必要があります。

Oracle Enterprise Manager Web Site における日本語ヘルプの表示について

Oracle Enterprise Manager Web Site で Oracle 9iFS 日本語ヘルプを表示するためには、次の処理を行う必要があります。

1. 『Oracle9i Application Server リリース・ノート リリース 2 (9.0.2)』の「Oracle Enterprise Manager Web Site の Help の修正の適用」に記載されている処理を実行
2. シンボリック・リンクの作成

```
ln -s $ORACLE_HOME/9ifs/lib/ifs_help_ja.jar $ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/online_help/ifs/ifs_help_ja.jar
```

3. Oracle Enterprise Manager Web Site を再起動

```
emctl stop
emctl start
```

IFSSHELL のヘルプで表示されるコマンド名について

IFSSHELL のヘルプで表示されるすべてのコマンド名の接頭には「ifs」が付いていますが、これは誤りです。正しいコマンドは先頭の「ifs」を除いたものになります。

例： login コマンドの場合

誤： 使用方法： ifslogin username/password

正： 使用方法： login username/password

Oracle Text 用表領域に関するマニュアルの訂正

『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストールおよび構成ガイド リリース 9.0.2』の「Oracle 9iFS 用のカスタム表領域の定義」(p.A-3)に記載されている Oracle Text 用表領域の説明には誤りがあります。

以下が正しい説明となります。

表領域	意味
Oracle Text 索引	Oracle Text のトークン表 (dr\$ifs_text\$i) を格納します。
Oracle Text キー・マップ	Oracle Text の表 dr\$_ifs_text\$k、dr\$ifs_text\$n および dr\$ifs_text\$r を格納します。
Oracle Text データ	Oracle Text のトークン表の索引 (dr\$ifs_text\$x) を格納します。

Oracle Internet Directory (OID) のデフォルト・ポート番号に関するマニュアルの訂正

『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストールおよび構成ガイド リリース 9.0.2』に記載されている OID のデフォルト・ポート番号について、次のように訂正します。

第3章「インストールと構成」(3-9)

Oracle Internet Directory のデフォルト・ポート番号は 389 です。SSL 使用可能モードのデフォルト・ポート番号は 636 です。

付録 B「Oracle Internet Directory および Oracle Enterprise Manager のリファレンス」(B-4)

Oracle Internet Directory のデフォルト・ポート番号は 389 です。

対応ディストリビューションについて (Linux)

このリリースの Oracle Internet File System for Linux Intel のサポート対象 Linux ディストリビューションは次のとおりです。

- Red Hat Linux Advanced Server 2.1
- Red Hat Linux Advanced Server 2.1 powered by MIRACLE

全文検索機能 (Oracle Text) を使用する場合の注意 (Linux)

Red Hat 系 Linux ディストリビューションにて Oracle9i リリース 1 (9.0.1) の Oracle Text を使用する場合、Oracle 9iFS をインストールする前に Oracle9i データベースにパッチを適用する必要があります。パッチの詳細は、『Oracle9i for Linux Intel リリース・ノート リリース 9.0.1』の第1章「Red Hat 系 Linux ディストリビューションでの INSO フィルターの使用について」を参照してください。

Tru64 UNIX 版 Oracle 9iFS Manager のメモリ不足について

Tru64 UNIX 版 Oracle 9iFS Manager で操作を行っていると、java.lang.OutOfMemoryError が発生して操作が行えなくなることがあります。これは、Oracle 9iFS Manager を起動する Java Virtual Machine (JVM) に割り当てられているメモリ量が少ないことが原因です。

Oracle 9iFS Manager の JVM が使用できる最大メモリ量は \$ORACLE_HOME/9ifs/bin/ifsmgr スクリプト内の JRE_ARGS 変数の中で 32MB に設定されています。

```
JRE_ARGS="-mx32M -DOEMNEEDED=false -DORACLE_HOME=$ORACLE_HOME"
```

この -mx オプションで指定するメモリサイズを変更することで、JVM に割り当てる最大メモリ量を増やすことができます。例えば、以下のように設定することで、割り当てられる最大メモリ量は 64MB になります。

```
JRE_ARGS="-mx64M -DOEMNEEDED=false -DORACLE_HOME=$ORACLE_HOME"
```

Oracle 9iFS SDK サンプル・プログラムについて

Oracle 9iFS SDK では、Oracle 9iFS Java API の習得およびカスタム・アプリケーションの開発に役立つサンプル・プログラムが多数提供されています。製品に標準で付属しているサンプル・プログラムには一部不具合があるため、サンプル・プログラムの修正版が「Oracle9i Application Server Release 2 (9.0.2) Update Kit CD-ROM」で提供されています。サンプル・プログラムを使用する場合は必ず、こちらを適用してください。

修正版サンプル・プログラムの適用方法については、「Oracle9i Application Server Release 2 (9.0.2) Update Kit CD-ROM」内の下記ファイルをご参照ください。

`/ifs/smplcode/ifs902smpupd.htm`

oracle.ifs.adk.mail パッケージについて

このリリースの Oracle 9iFS では、`oracle.ifs.adk.mail` パッケージに含まれる `ifsStore` クラスおよび `ifsTransport` クラスはサポート対象外です。

Web ユーザーインタフェースのカスタマイズについて

Oracle 9iFS の標準 Web ユーザーインタフェース (WebUI) の変更はサポートされません。独自の Web ユーザーインタフェースが必要な場合は、Servlet や JSP から Oracle 9iFS にアクセスする Web アプリケーションを作成する必要があります。

オブジェクト名に関する制限について

クラスや属性の名前に、日本語などのマルチバイト・キャラクタを使用することはできません。たとえば、コンテンツ・タイプを作成する場合、コンテンツ・タイプ名やプロパティ名には日本語を使用できません。

Oracle Partitioning の使用について

『Oracle Internet File System 開発者リファレンスリリース 9.0.2』の 3-52 ページおよび 5-9 ページには、Partitioned 属性、または XML 要素 `<PARTITIONED>` により、コンテンツ・タイプのインスタンスを格納する表がパーティション化されるかどうかを指定できるという記述があります。このリリースの Oracle 9iFS では、これらの方法を使用したデータベース表のパーティション化はサポート対象外です。

レンダラの実装について

『Oracle Internet File System 開発者リファレンスリリース 9.0.2』の 11-4 ページおよび 11-5 ページでは、レンダラ・クラスの作成に関して、`oracle.ifs.server.renderers.Renderer` インタフェースを実装するという記述がありますが、このインタフェースは直接実装できません。かわりに、`oracle.ifs.server.renderers.BaseRenderer` をサブクラス化して使用してください。

Oracle 9iFS イベントについて

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス リリース 9.0.2』の 13-13 ページでは、`LibraryObject` (Document など) の作成、更新、削除などに対応した Oracle 9iFS イベントをアプリケーションで簡単に認識できるように読み取れる記述があります。しかし、Oracle 9iFS イベントはシステム・レベルのものであるため、アプリケーションで使用することはできません。

getServerName() メソッドについて

`oracle.ifs.beans.LibrarySession` クラスの `getServerName()` メソッドは使用できません。使用した場合、コンパイル時のエラーとして次のメッセージが表示されます。

```
method getServerName() not found in class oracle.ifs.server.S_LibrarySession
```

日本語環境における Oracle Text の制限について

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス リリース 9.0.2』の 3-62 ページにおいて、Oracle Text を使用した様々な内容検索が説明されていますが、日本語環境では一部使用できない機能があります。日本語環境における Oracle Text の制限については、Oracle9i Database リリース・ノートならびに Oracle Text リファレンス・マニュアルを参照してください。

サンプル・プログラム「PropertySettingServlet.java」について

サンプルコードとして提供されている PropertySettingServlet.java は、Oracle 9iFS リリース 9.0.2 では使用できません。

サンプル・プログラム「SimplestParser.java」について

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス リリース 9.0.2』の 9-4 ページ以降で、SimplestParser というサンプルがありますが、このサンプルを実際に動作させるためには、Oracle 9iFS Manager の「開発者のタスク」より、フォーマット / MIME タイプの追加設定を行う必要があります。

[新規作成]

MIME タイプ text/plain

拡張子 cus

サンプル・プログラムで使われている推奨されない API について

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス リリース 9.0.2』の 15-10 ページ以降、例 15-1, 14, 15, 23, 24, 45 のサンプルの中で、DISTINGUISHED_NAME_SUFFIX フィールドと、EMAIL_ADDRESS_SUFFIX フィールドが使われています。しかし、これらは Oracle 9iFS リリース 9.0.2 より推奨されない API となったため、<DISTINGUISHED_NAME_SUFFIX> のかわりに <DISTINGUISHED_NAME> が、また <EMAIL_ADDRESS_SUFFIX> のかわりに <EMAIL_ADDRESS> が正しい記述となります。

なお、サンプル・プログラムの修正版を適用済の場合、ソースコード自体は修正済です。

JDBC ドライバに関するマニュアルの訂正

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス リリース 9.0.2』の 1-17 ～ 19 ページに記載されている JDBC ドライバのファイル名には誤りがあります。

誤： <ORACLE_HOME>/jdbc/lib/classes13.zip

正： <ORACLE_HOME>/jdbc/lib/classes12.zip

Oracle Internet Directory（OID）で必要なクラスパスについて

Oracle Internet Directory（OID）を資格証明マネージャに使用している Oracle 9iFS システムの場合、カスタム・アプリケーションのクラスパスに次のライブラリを追加する必要があります。

<ORACLE_HOME>/jlib/ldap.jar

Oracle Internet File System リリース・ノート

原典情報 : Oracle Internet File System Release Notes, Release 9.0.2 for AIX-Based Systems, Compaq Tru64 UNIX, HP 9000 Series HP-UX, and Linux Intel (A97357-01)

概要

このリリース・ノートは、Oracle Internet File System (Oracle 9iFS) for AIX-Based Systems, Compaq Tru64 UNIX, HP 9000 Series HP-UX, and Linux Intel リリース 9.0.2 に固有のものです。次の情報が記載されています。

- [変更点と新機能](#)
- [対応クライアントとシステム要件](#)
- [Oracle 9iFS Java API での推奨されていない機能](#)
- [構成に関する問題](#)
- [一般的な問題](#)
- [Oracle Internet Directory に関する問題](#)
- [Oracle Text に関する問題](#)
- [クライアント固有の問題](#)
- [マニュアルに関する問題](#)
- [既知の問題](#)

変更点と新機能

このリリースでは、Oracle9i Application Server との統合など、いくつかの新機能が導入されています。Oracle9i Application Server との統合には、Oracle Internet Directory および Oracle9iAS Containers for J2EE (OC4J) のサポートが含まれます。また、このリリースでは AppleTalk Filing Protocol (AFP) がサポートされており、Macintosh ユーザーは、AppleShare ファイル・サーバーの場合と同じように Oracle 9iFS に接続することができます。

Oracle9i Application Server との統合

Oracle 9iFS は、Oracle9i Application Server と統合されています。Oracle Internet Directory および Oracle Enterprise Manager と統合するように特別に設計され、中でも Web ブラウザ・ベースの監視および管理を可能にする新しい Oracle Enterprise Manager の Web サイトとの統合が重視されています。

Oracle Internet Directory のサポート (LDAP サポート) Oracle Internet Directory は、Oracle による LDAP (Lightweight Directory Access Protocol) v.3 準拠のディレクトリ・サービスの実装です。Oracle Internet Directory は、Oracle9i Application Server のコンポーネントおよび Oracle 9iFS に対し、ユーザー認証などのディレクトリ・サービス機能を提供することができます。Oracle 9iFS で Oracle Internet Directory を使用する場合は、ユーザー管理が以前のリリースと変わることになります。システム管理者は、Oracle 9iFS を使用する前に別の初期手順を実行することが必要な場合があります。

たとえば、Oracle 9iFS インスタンスで Oracle 9iFS ユーザーを認証する場合、システム管理者は Oracle Internet Directory 資格証明マネージャ (OidCredentialManager) を作成する必要があります。Oracle Internet Directory 資格証明マネージャの構成については、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle 9iFS で提供される移行ツールを使用すると、既存の Oracle 9iFS ユーザー・アカウントを Oracle Internet Directory に移行できます。詳細は、「[Oracle Internet Directory のユーザー移行ツールの使用](#)」を参照してください。このリリースの Oracle 9iFS に固有の注意事項と問題の回避策、および Oracle Internet Directory との統合については、「[Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーの実行による Oracle Internet Directory の変更ログのページ](#)」を参照してください。

Oracle9iAS Containers for J2EE (OC4J) のサポート Oracle9i Application Server は、JavaServer Pages (JSP)、Java Servlet、Enterprise JavaBeans および Java 2 Platform, Enterprise Edition (J2EE) の多くの API をサポートする、J2EE 準拠のアプリケーション・サーバーを提供します。Oracle9i Application Server におけるこれらの API のサポートは、Oracle9iAS Containers for J2EE (OC4J) コンポーネントによって提供されます。

OC4J は、Oracle 9iFS の Java Servlet および JavaServer Pages 実行環境として、Apache JServ に代わるものです。Oracle 9iFS は、OC4J を使用して Oracle 9iFS サブレット、具体的には HTTP/DAV サブレット およびポートレット・サブレットをサポートします。

Oracle 9iFS をインストールおよび構成した後、Oracle 9iFS で提供されるコマンドライン・ユーティリティを使用して、これらのサブレットを OC4J にデプロイする必要があります。Oracle 9iFS サブレットの OC4J へのデプロイについては、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストールおよび構成ガイド』を参照してください。

OC4J は、新しい Web ベースの Oracle Enterprise Manager ソフトウェア (Enterprise Management Daemon または EMD と呼ばれる) をサポートするためにも使用されます。詳細は、「[Web ベースの管理](#)」を参照してください。

Web ベースの管理 ブラウザを使用して、Oracle 9iFS ドメインを構成するすべてのノードへホストごとに接続できるようになりました。これには、Oracle9i Application Server の新しいコンポーネントである EMD (Enterprise Management Daemon) を使用します。Web ベースの管理をサポートするソフトウェア・インフラストラクチャ (特に、Oracle9i Application Server の Oracle9iAS Containers for J2EE (OC4J) コンポーネント) は、Oracle 9iFS の構成プロセスの最後に、自動的に Oracle 9iFS 用に構成されます。

Oracle9iAS Containers for J2EE と、Oracle9i Application Server におけるその役割の詳細は、『Oracle9i Application Server 概要』を参照してください。Oracle9iAS Containers for J2EE の運用、管理および監視の詳細は、『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

AppleTalk Filing Protocol (AFP) のサポート

Oracle 9iFS には、AFP 2.2 準拠の AppleTalk Filing Protocol (AFP) サーバーが含まれています。Mac OS 9 および Mac OS X クライアントは、あたかも AppleShare サーバーであるかのように Oracle 9iFS AFP サーバーを使用することができます。構成パラメータの情報など、新しい AFP プロトコル・サーバーのサポートの詳細は、『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』を参照してください。

AFP 2.2 で切り捨てられるロング・ファイル名

AFP 2.2 は 32 文字以上のファイル名をサポートしていないため、Oracle 9iFS AFP サーバーはロング・ファイル名を切り捨てます。ただし、AFP サーバーは、このプロトコルでの慣例どおりファイル名の末尾に数値を追加することで一意な名前を生成します。

対応クライアントとシステム要件

Oracle9i Database Server のリリース 9.0.1.3 では、重要度の高いいくつかの問題が修正されています。入手可能になりしだい、このリリースのデータベースにアップグレードしてください。

対応クライアント

次に示すクライアント・ソフトウェアは、Oracle 9iFS で使用できることを確認済です。

Microsoft Windows

- Microsoft Windows クライアント・オペレーティング・システム (SMB を介した Oracle 9iFS サーバーへのアクセス、Windows ユーティリティおよび Web インタフェース用)
 - Microsoft Windows NT 4.0 Workstation および Server (Service Pack 6 以上)
 - Microsoft Windows 95、98 および ME
 - Microsoft Windows 2000 Professional および Server
- Web ブラウザ (FTP、IMAP4、SMTP、HTTP および Web インタフェース用)
 - Netscape Communicator 4.72 以上 (Netscape 6.x は、このリリースではサポートされません。)
 - Microsoft Internet Explorer 5.0、5.5 および Microsoft Outlook Express 5.0 (Internet Explorer 6.0 には対応していません。)
- 電子メール・クライアント
 - Eudora 4.3 (IMAP および SMTP 用)
 - PINE 4.33 (IMAP および SMTP 用)
- FTP クライアント
 - OnNet FTP 4.0
 - Ipswitch WS_FTP32
- NFS クライアント
 - Hummingbird NFS Maestro 6.0 for Windows 95/98/NT
 - Hummingbird NFS Maestro 7.0 for Windows NT/2000
 - OnNet 7.0 (Windows 2000 のみ)

Apple Macintosh

- Mac OS 9.0.4、Mac OS 9.1 および Mac OS X
 - Netscape Communicator 4.73 以上 (Web インタフェースおよび電子メール用) (Netscape 6.x は、このリリースではサポートされません。)
 - Microsoft Outlook Express 5.0

UNIX NFS クライアントのサポート

- Sun Solaris 7 および 8
- SuSE SLES-7 Linux 7.2
- Red Hat Linux 6.2 および 7.1
- HP-UX 11.0
- AIX 4.3.3
- Compaq Tru64 5.1

注意： AIX 4.3.3、Compaq Tru64 5.1 および HP-UX 11.0 では、パブリック・オプションまたはマウント・ポイント・オプションはサポートされていません。これらのプラットフォームで UNIX NFS クライアントを使用し、Oracle 9iFS へアクセスするには、ポート 2049 上で Oracle 9iFS NFS プロトコル・サーバーを構成します。デフォルトでポート 2049 上でリスニングする UNIX NFS サーバーは、この Oracle 9iFS NFS サーバーと同時に稼働させることはできません。

Oracle 9iFS Java API での推奨されていない機能

Oracle 9iFS Java API では新しい機能およびテクノロジーを採用しているため、特定のクラス、属性およびメソッドが廃止されている可能性があります。これらの推奨されていない機能は、次回のメジャー・リリースで削除される予定です。これらの情報は、ユーザーが、サポートされているクラス、属性およびメソッドを使用したアプリケーションに変更するための十分なリリース・サイクルを確保するために提供されます。

このリリースで推奨されていない機能を確認するには、Javadoc の「Deprecated」リンクを参照してください。それぞれの推奨されていない機能には、サポートされている同等の使用法を示すコメントが付けられています。-deprecation フラグを付けて Java アプリケーションをコンパイルすることにより、自分のアプリケーションで問題のあるクラス、属性またはメソッドを使用していないかどうかをチェックすることもできます。

コレクションの改善

このリリースでは、Oracle 9iFS の `java.util.Collections` の実装が変更され、拡張性が向上しました。主な変更点は次のとおりです。

- コレクション内のすべての項目がキャッシュされるわけではなくなりました。
- `Collection` はクラスからインタフェースに変更されました。

新しい `Collection` インタフェースのメソッドは、以前の `Collection` クラスのメソッドと同じシグネチャを持つようになりました。

新しい実装クラス 次の図は、`Collection` インタフェースと実装クラスの関係を示しています。

```
oracle.ifs.common.Collection (interface)
|
+---oracle.ifs.common.CachedCollection (abstract)
| |
| +--- oracle.ifs.common.CachedSelectorCollection
| |
| +--- oracle.ifs.common.CachedResolverCollection
|
+---oracle.ifs.common.UncachedResolverCollection
```

`LibrarySession` および `S_LibrarySession` の `get*Collection()` メソッドの宣言された戻り値は、適切な `Collection` のサブクラスを反映するように変更されています。

エラー・コードの変更 Collection のメソッドのエラー・コードが変更されています。指定した名前が無効な場合、Collection.getItems(String) によって発生する例外スタックは次のようになります。

```
iFS 9.0.2:
IFS-12200 (" 無効な項目名が指定されました。")
IFS-12214 (" 名前でコレクションの項目を取得できません。")
IFS-12200 (" 無効な項目名が指定されました。")
```

コレクション・クラスの異なる使用方法 エラー・コードに対するこの変更の例として、次のようなエラー・コードのテストがあるとします。

```
if (e.getErrorCode() == 12200)
```

今回のリリースでは、エラー・コードを次のように変更します。

```
if (e.containsErrorCode(12200))
```

一般的に、特定のエラーが予測される場合は、containsErrorCode() を使用することをお勧めします。この方法により、将来のリリースにおいて、例外スタックでのエラー・コードの位置が変更されても、ユーザーのコードが保護されます。これらのクラスの詳細は、Javadoc を参照してください。

サービス構成プロパティのデリミタの変更

このリリースの Oracle 9iFS では、可読性を向上させるため、サービス構成プロパティで空白を使用できるようになりました。たとえば、プロパティ値に次のような値を指定できます。

```
IFS.SERVICE.CREDENTIALMANAGER.Oid.Subscribers = DEFAULT SUBSCRIBER
```

以前のリリースでは、空白はプロパティの代替値を区切るために使用されていました。このリリースでは、単独のカンマがデリミタとして機能します。既存のプロパティで空白をデリミタとして使用している場合は、これをカンマに変更する必要があります。

interMedia メソッド

次のメソッドは、実際の値 (int、long または double) ではなくオブジェクトを返すようになりました。この変更は、属性値が存在しない場合に NULL を返すようにするために行われました。カスタム・アプリケーションでこれらのメソッドのいずれかを使用している場合は、正しい戻り値を受け取るようにコードを変更する必要があります。

interMediaAudio

```
int getAudioBitsPerSample(); int getAudioNumChannels();
int getAudioSampleRate()
```

interMediaAudioCDTrack

```
int getAudioCdTrackFrame(); int getAudioCdTrackLBA();
int getAudioCdTrackMinute(); int getAudioCdTrackSecond()
```

interMediaImage

```
int getImageBitsPerPixel(); int getImageCount();
long getImageHeight(); double getImageHorizontalRes();
double getImageVerticalRes(); long getImageWidth()
```

interMediaSource

```
long getMediaBitRate(); long getMediaSize()
```

interMediaVideo

```
int getVideoDepth(); long getVideoFrameRate();  
long getVideoFrameSize(); int getVideoHorizontalRes();  
long getVideoSrcHeight(); long getVideoSrcWidth();  
int getVideoVerticalRes();
```

構成に関する問題

ここでは、Oracle 9iFS をインストールおよび構成する前に注意する必要がある問題について説明します。

Oracle Internet Directory および Oracle 9iFS に関する問題

このリリースの Oracle 9iFS をインストールおよび構成する前に、Oracle Internet Directory と Oracle 9iFS に関していくつかの問題に注意する必要があります。詳細は、「[Configuration Bugs](#)」の項目「Bug 2282201, 2100615」、「Bug 2212389, 2287968」および「Bug 2350378」を参照してください。これらの問題は、Oracle Internet Directory をサポートするデータベース・インスタンスを Oracle9i Database Server のリリース 9.0.1.3 にアップグレードすることで修正できます。入手可能になりしだい、このリリースにアップグレードしてください。

IfsDefault.properties に関する問題

中間層マシンのコマンドライン (ifsmgr、ifsdashboard および ifsoidcm) から、Oracle 9iFS Manager、Dashboard および Credential Manager Configuration Assistant を起動できるようにするには、追加の作業を手動で行う必要があります。簡単に説明すると、追加の中間層ノードを既存のドメインに構成 (Oracle 9iFS Configuration Assistant で「既存の Oracle 9iFS スキーマを再利用」を選択) し、資格証明管理に Oracle Internet Directory を使用している場合は、Oracle 9iFS Manager および Dashboard を使用する前に、まず中間層マシンで Credential Manager Configuration Assistant を実行する必要があります。Credential Manager Configuration Assistant を実行すると、IfsDefault.properties ファイルが、Oracle 9iFS インスタンスに関連付けられている既存の資格証明マネージャ (OidCredentialManager) と同期化されます。Credential Manager Configuration Assistant を実行する際は、必ず正しいスキーマ名を選択してください。詳細は、「[Configuration Bugs](#)」の項目「Bug 2320341」を参照してください。

Oracle 9iFS の管理専用の構成では、コマンドライン・バージョンの ifsmgr、ifsdashboard および ifsoidcm をサポートするために、IfsDefault.properties ファイルを手動で編集する必要があります。詳細は、「[Configuration Bugs](#)」の項目「Bug 2320292」を参照してください。また、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』の付録 B の「管理専用の構成」も参照してください。

Oracle9i Application Server の「Unified Messaging」インストール・タイプ

Oracle 9iFS で Oracle9i Application Server の「D. Unified Messaging」インストール・タイプを使用する場合は、SMTP サーバーまたは IMAP サーバーでポートが競合する可能性があることに注意してください。

Oracle9i Application Server の「D. Unified Messaging」では、IMAP サーバーおよび SMTP サーバーの両方が提供されます。Oracle 9iFS でも IMAP サーバーが提供され、またオプションとして Sendmail と統合することにより、SMTP ゲートウェイを介したメール転送機能が提供されます。

Oracle 9iFSIMAP サーバーおよび Oracle9iAS Unified Messaging IMAP サーバーの両方を同一のマシンで使用する場合は、いずれかのサーバーのポート番号を変更する必要があります。これは、デフォルトではどちらもポート 143 を使用するためです。Oracle 9iFS IMAP サーバーのポート番号は、構成時に変更できます。Oracle9iAS Unified Messaging IMAP サーバーのポートは、Oracle9iAS Unified Messaging Email Server の管理ツールを使用して変更できます。いずれかの IMAP サーバーのポート番号を変更した場合は、使用する IMAP クライアント・アプリケーションを、選択したポートにあわせて構成する必要がありますことに注意してください。使用する IMAP クライアントをポートにあわせて構成できない場合は、ポートの競合を回避するために、Oracle9iAS Unified Messaging IMAP サーバーと Oracle 9iFS IMAP サーバーを 2 つの異なる中間層マシンにインストールする必要があります。

デフォルトでは、Oracle 9iFS が使用する Sendmail ゲートウェイと Oracle9iAS Unified Messaging SMTP サーバーは、どちらもポート 25 を使用します。Oracle 9iFS のこのポート番号は変更できないため、同一の中間層マシンで、Oracle9i Application Server の SMTP サーバーと、Sendmail と統合した Oracle 9iFS の両方を実行することはできません。

一般的な問題

ここでは、操作および管理に関する一般的な問題について説明します。

Sendmail との統合

Sendmail を Oracle 9iFS と統合するには、root ユーザーとして次のコマンドを実行します。

```
$ORACLE_HOME/9ifs/bin/ifsemailsetup
```

このコマンドを実行すると、/usr/lib/sendmail ファイルがオープン・ソースの Sendmail バージョン 8.9.3 で更新され、etc/sendmail.cf ファイルが Oracle 9iFS 固有の構成で更新されます。

このバージョンの Sendmail を使用しない場合、または Sendmail の現在の構成を残したい場合は、ifsemailsetup を実行しないでください。すでに ifsemailsetup を実行してしまっている場合は、オリジナル・ファイルのバックアップ /usr/lib/sendmail.bak および /etc/sendmail.cf.orig を使用してください。

参照： Sendmail に関する詳細は、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle 9iFS の 'analyze.sql' スクリプトの実行

Oracle 9iFS では、Oracle のコストベース・オブティマイザ（CBO）を使用して、SQL 文を実行する際の最も効率的な方法を決定する必要があります。CBO を正しく動作させるためには、Oracle 9iFS の定期的なオペレーションの一環として 'analyze.sql' スクリプトを実行する必要があります。特に、ユーザーが Oracle 9iFS に大量のファイルをロードした後など、データに対して大規模な変更が行われた後に実行します。

パフォーマンスに影響を与えないように、このスクリプトは処理の少ない時間帯に実行します。

analyze.sql を実行する前に、スキーマ統計をエクスポートしておくことを強くお勧めします。次に例を示します。

```
cd $ORACLE_HOME/9ifs/admin/sql
sqlplus ifssys/<password>
SQL> call dbms_stats.create_stat_table
      ('ifssys', 'my_stat_backup_table', null);
SQL> call dbms_stats.export_schema_stats
      ('ifssys', 'my_stat_backup_table',
      to_char(sysdate, 'DD-MON-YY HH24:MI.SS'), 'ifssys');
SQL> @analyze.sql ifssys
```

Oracle 9iFS に多数のドキュメントが存在する場合は特に、このスクリプトが完了するまでに数分かかる可能性があります。コストベース・オブティマイザの詳細は、『Oracle9i データベース・パフォーマンス・チューニング・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

なんらかの理由で古い統計情報に戻す必要が生じた場合は、次の文を実行します。

```
SQL> select statid from my_stat_backup_table;
SQL> call dbms_stats.import_schema_stats
      ('ifssys', 'my_stat_backup_table', <name of stat id>, 'ifssys');
```

Oracle 9iFS のユーザー名におけるマルチバイト・キャラクタ使用の制限

Oracle 9iFS ではマルチバイト・キャラクタ・セットがサポートされていますが、マルチバイト・キャラクタを使用して作成されたユーザー・アカウント名は、実質的にサポートされていません。Oracle 9iFS のユーザー・アカウントを作成する際は、シングルバイト・キャラクタのみを使用してアカウント名を作成する必要があります。マルチバイト・キャラクタを使用して作成されたアカウント名を持つユーザーは、多くの Oracle 9iFS プロトコル・サーバーでコンテンツにアクセスできなくなります。

Oracle Internet Directory に関する問題

すべての既知の問題に関する情報は、Oracle Internet Directory のリリース・ノートを参照してください。この項では、Oracle 9iFS に固有の問題についてのみ説明します。「[Configuration Bugs](#)」の項に示す問題のいくつかは、Oracle Internet Directory をサポートするデータベース・インスタンスを Oracle9i Database Server のリリース 9.0.1.3 にアップグレードすることで修正できます。入手可能になりしだい、このリリースにアップグレードしてください。

特定のプロトコル・サーバーでの Oracle 9iFS 固有のパスワードの使用

AFP、CUP、FTP および IMAP など多くのプロトコルで、暗号化されていないパスワードがネットワークを介して転送されます。HTTP や SMB など他のプロトコルでも、構成によっては、ユーザー・パスワードがそのまま（暗号化されずにクリアテキストとして）転送されます。

Oracle 9iFS が Oracle Internet Directory を使用してユーザー・パスワードを管理する場合、暗号化されていないパスワードを転送することは、セキュリティの観点から問題となります。これは、Oracle 9iFS へのアクセスを提供するのと同じパスワードが、認証に Oracle Internet Directory を使用するすべてのアプリケーションへのアクセスも提供してしまうためです。

この問題に対処するため、Oracle Internet Directory は、各ユーザーに対してアプリケーション固有の代替パスワードをサポートしています。Oracle 9iFS は、Oracle Internet Directory のこの機能をサポートしています。Oracle 9iFS 用の代替パスワードは、「Oracle 9iFS 固有のパスワード」と呼ばれます。したがって、各 Oracle 9iFS ユーザーは、Oracle Internet Directory 共通のパスワードと、Oracle 9iFS 固有のパスワードの2つのパスワードを持つことになります。

Oracle 9iFS は、プロトコルごとに、Oracle Internet Directory 共通のパスワードまたは Oracle 9iFS 固有のパスワードを使用するように構成できます。デフォルトでは、AFP、CUP、FTP および IMAP で Oracle 9iFS 固有のパスワードが使用されます。その他のすべてのプロトコルでは、Oracle Internet Directory 共通のパスワードが使用されます。したがって、ユーザーが AFP、CUP、FTP または IMAP の各プロトコルを使用して Oracle 9iFS にアクセスするには、Oracle 9iFS Manager または Oracle 9iFS Web ユーザー・インタフェースを使用して Oracle 9iFS 固有のパスワードを設定する必要があります。詳細は、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

デフォルトの構成が、Oracle 9iFS のすべてのタイプの配置に適切であるとはかぎりません。構成は、Oracle 9iFS Credential Manager Configuration Assistant を使用して変更できます。詳細は、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』の付録 B を参照してください。

Oracle Internet Directory のユーザー移行ツールの使用

Oracle Internet Directory は、デフォルトのパスワード・ポリシーで構成されます。これは、Oracle Internet Directory 管理者が変更できます。Oracle 9iFS を Oracle Internet Directory に移行する前に、移行時に使用されているパスワード・ポリシーが Oracle 9iFS ユーザーの使用するパスワードをサポートしているかどうかを、Oracle Internet Directory 管理者に確認する必要があります。たとえば、Oracle Internet Directory でパスワード内に数値を含むことが要求されている場合、Oracle 9iFS ユーザー・パスワードにも数値が含まれている必要があります。あるいは、Oracle Internet Directory のパスワード・ポリシーを移行時に変更または無効にする必要があります。

また、Oracle Internet Directory のユーザー移行ツールを使用して、ユーザーを Oracle 9iFS 資格証明マネージャから Oracle Internet Directory 資格証明マネージャに移行しても、移行したユーザーの情報が Oracle 9iFS 資格証明マネージャから削除されることはありません。Oracle 9iFS 資格証明マネージャを使用して、移行したユーザーを後で削除し、同じ識別名を持つ新しいユーザーを作成すると、次の例外が発生します。

IFS-10154: ユーザー (username) を作成できません。
IFS-10172: 識別子が一意ではありません。

これを回避するには、Oracle 9iFS 管理者は `oracle.ifs.server.S.LibrarySession` の `DYNCCredentialManagerDeleteUser` メソッドをコールして、削除するユーザーの Oracle 9iFS 資格証明マネージャの情報を明示的に削除する必要があります。

Oracle Internet Directory レプリケーション・サーバーの実行による Oracle Internet Directory の変更ログのパージ

Oracle 9iFS は、Oracle Internet Directory におけるユーザーおよびグループの変更の通知を、Directory Integration Platform で提供される Provisioning Integration Service に依存しています。これらの変更は Oracle Internet Directory の変更ログに記録され、変更イベントとして Oracle 9iFS に転送される前に、Provisioning Integration Service によって適宜フィルタリングされます。Oracle Internet Directory サーバーをレプリケーション・モードで配置していない場合でも、不要な変更ログのエントリを定期的にパージするために、ディレクトリ管理者はレプリケーション・サーバーを起動しておく必要があります。これを行うには、次のコマンドを使用してレプリケーション・サーバーを起動します。

```
$ oidctl connect=<net_service_name> server=oidrepld instance=1 flags="-p <ldapserver_port_number>" start
```

定期的なクリーンアップを行わないと、Oracle Internet Directory の変更ログがファイル・システム全体を占有するほど大きくなってしまう可能性があります。この場合、Oracle Internet Directory サービスが使用できなくなることがあります。変更ログをパージするためにレプリケーション・サーバーを起動しなければならないという制限は一時的なものであり、今後のリリースで解消される予定です。

レプリケーション・サーバーの起動および停止の詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Text に関する問題

ここでは、Oracle Text および Oracle 9iFS に関する問題について説明します。Oracle 9iFS で Oracle Text を使用する方法の詳細は、『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』の付録 E を参照してください。

Oracle Text による索引付けの監視

管理者は、どのドキュメントで Oracle Text による索引付けの際にエラーが発生したのかを確認することができます。次のサンプル・スクリプトを参照してください。

```
$ORACLE_HOME/9ifs/admin/sql/ViewContextErrors.sql
```

Oracle Text による索引付けの際に各ドキュメントを監視するには、Oracle Text 索引を同期化する前にプロシージャ `ctx_output.add_event()` を使用します。次のサンプル・スクリプトを参照してください。

```
$ORACLE_HOME/9ifs/admin/sql/SyncContextIndex.sql
```

Oracle Text による索引付けが行われた後、ドキュメントについてより詳細な情報を表示することもできます。次のサンプル・スクリプトを参照してください。

```
$ORACLE_HOME/9ifs/admin/sql/ViewDocumentByRowID.sql
```

検索タイムアウト・パラメータ

結果が返されていない実行中の検索のデフォルトのタイムアウト時間を表すための、サービス構成パラメータが用意されています。デフォルトのサービス構成の場合、`IFS.SERVICE.SESSION.DefaultSearchTimeoutPeriod` パラメータの値は 60（秒）に設定されています。

デフォルトのタイムアウト時間を変更する必要がある場合は、`IFS.SERVICE.SESSION.DefaultSearchTimeoutPeriod` パラメータを変更します。詳細は、『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』を参照してください。

クライアント固有の問題

ここでは、Oracle 9iFS を使用する前に注意する必要がある問題について説明します。

NFS クライアントでの NFS キャッシュ

NFS キャッシュを有効にした状態で、NFS を介して Oracle 9iFS にマウントされたファイル・システムは、セキュリティ違反を引き起こす可能性があります。権限を持ったユーザーが Oracle 9iFS ディレクトリにアクセスした後、権限のないユーザーが NFS キャッシュのタイムアウト時間内にその内容を表示できてしまう場合があります。

このセキュリティ上の問題を回避するには、管理者は、`-o actimeo=0` オプションを付けて NFS の `mount` コマンドを発行し、NFS キャッシュを無効にする必要があります。

Oracle 9iFS NFS: UNIX Nobody ユーザーと 9iFS NFS Guest ユーザー間のマッピング

`/ifs/nfs/config/UidToName` ファイルには、デフォルトで次のエントリがあります。

```
guset:x:60001
```

UNIX ユーザーの `nobody` が UNIX UID として 60001 を持つ場合、このエントリによって `nobody` が 9iFS ユーザーの `guest` にマッピングされます。使用しているシステムの `nobody` ユーザーがこれと異なる UID を持っている場合は、このエントリを変更し、60001 の UID を適切な UID と置き換える必要があります。

参照： `UidToName` ファイルの変更に関する詳細は、『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』を参照してください。

Oracle 9iFS FileSync ユーティリティに関する問題

FileSync ユーティリティは、ユーザーがローカル・マシン上で行った変更、およびユーザーまたは他のユーザーが Oracle 9iFS 上で行った変更を検出でき、ほとんどの場合、これらの変更によって生じる競合を解決できます。ただし、特定の変更のタイプによって発生した競合については、現在は FileSync では解決できない場合があります。競合を解決できない場合、FileSync ではこのようなファイル変更の同期化をスキップするためのオプションのみが使用可能になります。

現在、次のタイプの競合は解決できません。次の説明にあるソースは元のファイル、ターゲットは生成されるファイルのことを指します。

- 新規 / 削除：「新規」のターゲットが「削除」のソースと競合する場合。たとえば、ローカル・フォルダと Oracle 9iFS フォルダを同期化しているときに新規のファイルをローカル・フォルダに作成したが、Oracle 9iFS のフォルダが削除されている場合です。現在、この競合は解決できません。
- 新規 / コピー：「新規」のターゲットが「コピー」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- 新規 / 編集：「新規」のターゲットが「編集」のターゲットと競合する場合。
- 新規 / 移動：「新規」のターゲットが「移動」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- 移動 / 編集：「編集」のターゲットが「移動」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- 移動 / 削除：「削除」のソースが「移動」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- 移動 / 移動：「移動」のソースと「移動」のターゲット双方で競合が発生する可能性がある場合。
- コピー / コピー：「コピー」のソースと「コピー」のターゲット双方で競合が発生する可能性がある場合。
- コピー / 削除：「削除」のソースが「コピー」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- コピー / 編集：「編集」のターゲットが「コピー」のソースまたはターゲットと競合する場合。
- コピー / 移動：「コピー」のソースと「移動」のターゲットおよび「移動」のソースと「コピー」のターゲット双方で競合が発生する可能性がある場合。

Web UI に関する問題

ここでは、Web UI に関する一般的な問題について説明します。

マルチバイト・ロケールにおけるドラッグ & ドロップ機能によるアップロードおよびインタフェース

マルチバイト対応の Internet Explorer の不具合のため、ドラッグ & ドロップ機能によるアップロードは、Oracle 9iFS サーバーのデフォルト・キャラクタ・セットとクライアント・マシンのキャラクタ・セットが一致する場合にのみ実行可能です。

FTP を使用したドラッグ & ドロップ機能における Web プロキシ

Web ブラウザが FTP でプロキシを使用しないように、Web ブラウザの設定を変更する必要がある場合があります。Web プロキシを使用すると、Web インタフェースでドラッグ & ドロップ機能を使用してサーバーにファイルをアップロードする際に問題が発生する可能性があります。

マニュアルに関する問題

HTML バージョンの『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』では、一部の表の上部に余計な空白が表示される場合があります。この問題は、Netscape のブラウザで表示した場合にのみ発生します。

『Oracle Internet File System 開発者リファレンス』の第 12 章「Web インタフェースのカスタマイズ」において、サーブレットは JServ ではなく OC4J にデプロイする必要があります。JServ に言及しているものは、OC4J に置き換えてください。

『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』の第 5 章および第 10 章で JServ に言及しているものは、OC4J と置き換える必要があります。

Oracle 9iFS ドメインおよびノードのコマンドラインからの開始および停止

ドメインおよびノードは、コマンドラインから開始および停止することもできます。これは、OS の root 資格証明を所有していない場合に必要になります。

ドメインおよびノードのコマンドラインからの開始

ドメイン・コントローラを実行するマシンで、次の手順を実行します。

1. `$ORACLE_HOME/9ifs/bin` にある `ifslaunchedc` スクリプトを使用して、ドメイン・コントローラを起動します。このスクリプトは、Oracle9i データベースをインストールしたユーザーまたは root ユーザーで実行できます。
2. ノードを実行するマシンで、`$ORACLE_HOME/9ifs/bin` にある `ifslaunchnode` スクリプトを使用してノードを起動します。このスクリプトを実行するには、root ユーザーである必要があります。
3. `$ORACLE_HOME/9ifs/bin` にある `ifsstartdomain` スクリプトを使用して、ドメイン・コントローラを開始します。このスクリプトは、`ifslaunchedc` を実行したのと同じユーザーで実行する必要があります。

詳細は、『Oracle Internet File System セットアップおよび管理ガイド』の第 2 章「Oracle 9iFS ドメインの管理」を参照してください。

Oracle 9iFS ドメインのコマンドラインからの停止

`$ORACLE_HOME/9ifs/bin` にある `ifsstopdomain` スクリプトを実行します。このスクリプトは、`ifsstartdomain` を実行したのと同じユーザーで実行する必要があります。

最小メモリー要件

『Oracle Internet File System for UNIX Systems インストレーションおよび構成ガイド』の P.2-3、表 2-1 に示した「複数のマシンでの配置（本番環境用）」の最小メモリー要件は、2GB ではなく、1GB です。

既知の問題

このリリースの Oracle 9iFS には、次の問題が存在することがわかっています。

Configuration Bugs

Bug 2350378	Oracle 9iFS Configuration Assistant may fail with IFS-10142: Invalid credential manager name.
Description:	This bug may occur when attempting to use the Oracle Internet Directory credential manager while creating the iFS schema. The schema creation process fails and reports the following exception: oracle.ifs.common.IfsException: IFS-10142: Invalid credential manager name (ifs/Oid)
Action:	<ol style="list-style-type: none"> 1. Click OK to exit the Configuration Assistant. 2. Rerun the Configuration Assistant using the same values as given in the previous run. 3. Ensure that you are trying to create a schema with the same name as in the previous run. 4. If the Configuration Assistant reports that the schema already exists, indicate that you want to overwrite the existing schema.
Bug 2282201, 2100615	Oracle 9iFS configuration may fail when attempting to configure an SSL-enabled Oracle Internet Directory for credential management.
Description:	This is an intermittent bug that occurs only when attempting to configure Oracle 9iFS with an SSL-enabled Oracle Internet Directory for credential management.
Action:	Upgrade the database instance supporting the Oracle Internet Directory to release 9.0.1.3 as soon as it becomes available. As a temporary workaround, in a <i>non-production environment only</i> , you can disable SSL (secure sockets layer) on the Oracle Internet Directory. This is a security violation.
Bug 2212389, 2287968	Ifsconfig Fails with InvalidAttributeValueException or with an ORA-600 error.
Description:	Occasionally, when configuring an Oracle Internet Directory (via the Oracle 9iFS Configuration Assistant), the Oracle 9iFS Configuration Assistant fails with an invalid attribute value exception.
Action:	Set the <code>optim_peak_user_binds=FALSE</code> in the <code>init<db>.ora</code> file (or the SPFILE) and restart the database server where Oracle Internet Directory is running. Note that this bug will be fixed by upgrading the Oracle Internet Directory database to 9.0.1.3. Once you upgrade, you should remove this workaround from the <code>init<db>.ora</code> file.
Bug 2329188	Oracle 9iFS must be installed and configured in an Oracle9iAS Oracle home that also has an active Enterprise Manager Web site running (EMD).
Description:	If the host has more than one Oracle home based on Oracle9iAS Release 2, you must install and configure Oracle 9iFS in the Oracle home that is running the Enterprise Manager Web site, or you won't be able to manage the Oracle 9iFS instance.
Action:	Ensure that Oracle 9iFS is installed and configured in the Oracle home that contains the active Enterprise Manager Web site instance and that Oracle 9iFS was configured from that Oracle home.
Bug 2320292	Admin-only Oracle 9iFS configuration requires manual changes to IfsDefault.properties file before running Oracle 9iFS Manager, Dashboard, and Credential Manager Configuration Assistant.
Description:	The Admin-only configuration of Oracle 9iFS requires manual modifications to the <code>IfsDefault.properties</code> file to support the command-line versions of <code>ifsmgr</code> , <code>ifsdashboard</code> , and <code>ifsoidcm</code> .

Action:	<p>Using a text processor, open the <code>IfsDefault.properties</code> file, located in the <code>\$ORACLE_HOME/9ifs/settings/oracle/ifs/server/properties</code> directory and set the Oracle 9iFS schema name and service name in the file in these two lines:</p> <pre>IFS.SERVICE.JDBC.Schema=<SCHEMANAME> IFS.SERVICE.JDBC.DatabaseURL=jdbc:oracle:oci8:@<NETSERVICENAME></pre> <p>where <code><schemaname></code> is the name of the Oracle 9iFS schema (<code>ifssys</code> is the default) and <code><netservicename></code> is the name of the Oracle database service on the database machine. See the "Administration-only Configuration" instructions in Appendix B of the Oracle Internet File System for UNIX System Installation and Configuration Guide for more information.</p> <p>In addition, if you are using Oracle Internet Directory for credential management, you must synchronize the entries in the <code>IfsDefault.properties</code> file on this machine with the settings in the schema by running the Credential Manager. See Bug 2320341 for additional information.</p>
Bug 2320341	Cannot authenticate successfully through Oracle 9iFS Manager and Dashboard from a middle-tier machine (using Oracle Internet Directory for credential management).
Description:	If you add a node to an existing domain (and so you use the "Reuse existing schema" option during Oracle 9iFS configuration), you must synchronize the settings in the <code>IfsDefault.properties</code> file with the entries in the Oracle 9iFS schema. If you don't, you will receive authentication errors when you attempt to login to <code>ifsmgr</code> or <code>ifsdashboard</code> from this machine.
Action:	Run the Oracle 9iFS Credential Manager Configuration Assistant (<code>oidcmca</code>) on the middle-tier machine, entering the name of the Oracle 9iFS schema to which this node belongs. The <code>IfsDefault.properties</code> file will be updated with the correct information, and you can then launch <code>ifsmgr</code> or <code>ifsdashboard</code> .
Bug 2205709	Font errors in Java-based clients in Japanese locale (font.properties.java error).
Description:	Error messages about missing fonts display on Japanese environments when launching Java-based GUI tools.
Action:	You can edit the <code>font.properties.java</code> to match the fonts on the system. See Sun's Java web site for information about editing font properties. However, the fonts do not affect functionality, so you do not need to do this.
Bug 1865469	Oracle 9iFS domain information not discovered by Intelligent Agent.
Description:	When you deinstall Oracle 9iFS software and then reinstall it in the same Oracle home using the same Oracle 9iFS schema, the Intelligent Agent will be unable to discover the Oracle 9iFS domain controller and node that existed in the schema previously.
Action:	Before deinstalling, make a backup copy of <code>\$ORACLE_HOME/network/agent/config/ifs.ora</code> . After reinstalling the Oracle 9iFS software, run the Oracle 9iFS Configuration Assistant, and choose to re-use the same schema. Then restore the backup copy of <code>ifs.ora</code> so that the Intelligent Agent will be able to discover the Oracle 9iFS domain controller and nodes.
Bug 1860278	Oracle 9iFS Configuration Assistant may hang on "Verifying Oracle JServer".
Description:	Under unusual circumstances, the Oracle 9iFS Configuration Assistant may hang during the "Verifying Oracle JServer" step.
Action:	If the step does not complete within two minutes, kill the process and re-start the Oracle 9iFS Configuration Assistant.
Bug 1866051	"Checking available ports" may take several minutes if Apache or JServ is using the ports.
Description:	The "Checking available ports" step when running the Oracle 9iFS Configuration Assistant may take several minutes if the Apache Web Server or the Oracle 9iFS JServ process is running.
Action:	<p>Stop the Oracle 9iFS JServ process using</p> <pre>ifsJservctl -stop</pre> <p>Restart the Oracle HTTP Server from the Services control panel (available from Administration Tools control panel in Windows 2000).</p> <p>Wait for a few minutes for the ports to clear, then rerun the Oracle 9iFS Configuration Assistant.</p>

Bug 1529995	Custom policies that are placed in renderer's value domains are lost during upgrade.
Description:	When performing an upgrade from Oracle Internet File System release 1.x to Oracle 9iFS, the value domain used by Oracle 9iFS Manager to manage renderer policies is removed and recreated to accommodate new renderer policies added for WebDAV and e-mail. This does not affect any of the out-of-the-box renderer policies. However, any custom renderer policies created and added to this value domain will be lost. Note that the policy is not removed; rather, Oracle 9iFS Manager cannot see the policies.
Action:	Note the custom renderer policies added into the value domain. After you install Oracle 9iFS, add these entries back into the value domain, through, for example, the Oracle 9iFS Manager.

Administration Bugs

Bug 2339856	Help does not display in the correct language, even though the locale is correctly set.
Description:	Oracle 9iFS Help is not shown in the correct language because of missing symbolic links to the help .jar file.
Action:	<ol style="list-style-type: none"> Create a symbolic link to the help system .jar file for the required language, as shown in the following single line command: <pre>ln -s \$ORACLE_HOME/9ifs/lib/ifs_help_<lang>.jar \$ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/online_help/ifs/ifs_help_<lang>.jar</pre> <p>where <lang> is the abbreviation for the language you need, such as de, es, fr, ja, pt_BR, it, ko, zh_TW, zh_CN, and so on. The following single line shows an example of creating a symbolic link to the German language version of the help file:</p> <pre>ln -s \$ORACLE_HOME/9ifs/lib/ifs_help_de.jar \$ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/online_help/ifs/ifs_help_de.jar</pre> Restart the Oracle Enterprise Manager Web site.
Bug 2338372	Japanese Help does not show in Oracle Enterprise Manager Web page.
Description:	In the Japanese environment, Oracle 9iFS Help does not show in Oracle Enterprise Manager (Web-based).
Action:	<p>Follow these steps:</p> <ol style="list-style-type: none"> Follow the steps in the Oracle9i Application Server Release Notes Addendum (9.0.2; Part No A90337-01) to work around Bug 2333168 or 2326951. Create a symbolic link to the Help .jar file: <pre>ln -s \$ORACLE_HOME/9ifs/lib/ifs_help_ja.jar \$ORACLE_HOME/sysman/webapps/emd/online_help/ifs/ifs_help_ja.jar</pre> Restart the Oracle Enterprise Manager Web site.
Bug 2276820	Traditional Chinese IME (input method) does not work with Oracle 9iFS Manager on Solaris 7 (Solaris 2.7).
Description:	The Traditional Chinese IME does not work with Oracle 9iFS Manager when started from the command line on Solaris 7 (Solaris 2.7) if the language is set to zh_TW.BIG5. The Traditional Chinese IME works fine on Solaris 8 (Solaris 2.8) or when the language is set to zh_TW.
Action:	Set the language to zh_TW (LANG=zh_TW; export LANG) before launching the Oracle 9iFS Manager.
Bug 2183550	Chipped characters in Dashboard display (Japanese locale only).
Description:	Japanese Locale only. The opening display of the Dashboard (the page that displays launch progress), the final characters in the first string don't display correctly; they appear to be chipped.
Action:	None.
Bug 2181034	Nodes don't display when sysadmin password fails to authenticate.

Description:	Nodes don't display in the nodes table if the system administrator password in targets.xml file is not correct.
Action:	<p>Edit the targets.xml file using the Oracle Enterprise Manager administration web page:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Connect to <code>http://<hostname>:1810/emd/console/admin</code>. Enter the <code>ias_admin</code> and password when prompted. 2. Select the Oracle 9iFS domain controller from the Agents Monitored table, and then click Next to display the Edit Target: Properties page. 3. Edit the Oracle 9iFS system administrator password, and then click Finish to save the change. 4. Restart the Oracle Enterprise Manager daemon by executing <code>emctl start</code> at a command script. <p>See the Oracle Internet File System Setup and Administration Guide for more information.</p>
Bug 1753455	Changes to server not reflected until servers unloaded and reloaded.
Description:	When you use Oracle 9iFS Manager to make a change in the protocol or server configuration, you will need to unload and reload the servers (not just stop and start the servers) before the change will take effect.
Action:	Unload and reload the servers after any changes.
Bug 1847573	No error given when Oracle 9iFS Dashboard exits due to wrong preferred credentials.
Description:	If you launch the Oracle 9iFS Dashboard from within OEM and have incorrect credentials in the OEM preferred credentials, the Dashboard will exit without any error message.
Action:	Set the preferred credentials to be the Oracle 9iFS schema name and password. Check the dashboard.log in the <code>\$ORACLE_HOME/9ifs/log</code> directory for more information.
Bug 1857080	Oracle 9iFS Dashboard startup from command line outputs log to stdout.
Description:	When invoking the Oracle 9iFS Dashboard from the command line (not from OEM), some messages are displayed on the terminal (standard output).
Action:	None. These messages may be safely ignored.
Bug 1867608	NLS: Oracle 9iFS Help does not appear in same content window as other OEM Help.
Description:	In the Oracle9i OEM Console, Oracle 9iFS related online help shows up with its own 'Contents', 'Index', and 'Find' tabs, separated from the rest of the OEM online help.
Action:	None.
Bug 1522235	NLS: Some English text may appear in translated product.
Description:	When using Oracle 9iFS Manager in Spanish, Italian, Korean and Traditional Chinese, some menus, tool-tips and buttons may show up in English.
Action:	None.
Bug 1718014	Cannot add extended attributes that are named the same as SQL reserved words.
Description:	You cannot name an attribute with Oracle reserved words such as UNIQUE and SELECT.
Action:	Choose other names for the attribute. See the Oracle9i SQL Reference for a list of reserved words.
Bug 1683035	Property Inspector: On Solaris, splitters do not resize when navigating via mouse.
Description:	On Solaris, the Property Inspector does not correctly re-size the "Categories" or "Relationships" pull-down splitter when using the mouse. As a result, categories and relationships can't be seen until the user manually clicks and pulls down the splitter.
Action:	Before navigating the "Properties", "Categories", or "Relationships" tabs, click (with the mouse) the "Properties" tab twice, after which all splitters will be re-sized correctly. This step must be done only once.
Bug 1167418	Cannot change ACL of a User Object itself.

Description:	The ACLs of DirectoryUsers cannot be changed in the Oracle 9iFS Manager.
Action:	Go to the Web interface and select the user in the Users list. Click Edit->Apply ACL to update the ACL.
Bug 1388097	Cannot rename an ACL or User.
Description:	ACLs or users cannot be renamed in Oracle 9iFS Manager.
Action:	To rename an ACL, go to the Web interface, select the ACL in the ACL list and click Edit->Rename. Renaming a DirectoryUser requires a Java utility that can update the NAME attribute of the DirectoryUser.

AFP Bugs

Bug 1990453	File Encrypt fails when using Mac OS Finder to encrypt files on Oracle 9iFS (mounted as AFP volume)
Description:	The Mac OS File-->Encrypt utility creates temporary files containing * in their names. However, Oracle 9iFS does not allow filenames to contain an asterisk.
Action:	Do not try to encrypt a file in Oracle 9iFS from a Mac. Instead, encrypt the file locally, on the Mac, and then copy the encrypted file to the Oracle 9iFS through AFP.

E-mail Bugs

Bug 2328749	Removing the mail folder of an Oracle 9iFS system admin account causes a variety of problems.
Description:	If the mail folder of the system user or any other system admin account is removed, this leads to inability to access information pertaining to any users or ACLs through the Web Interface. Secondly, you will not be able to change the Oracle 9iFS specific password for the system admin user from the Oracle 9iFS Manager tool. This would lead to that system admin user not being able login into any protocols that use the Oracle 9iFS specific password.
Action:	None. You must recreate the Oracle 9iFS schema or contact your support representative.
Bug 1859056	Binary e-mail attachments are not content indexed.
Description:	Content searches will not return matches on binary attachments in e-mails.
Action:	None. Currently only text and HTML e-mail content and attachments are indexed.
Bug 1197079	Deleting and expunging multiple messages in Netscape Messenger 4.7 may cause the client to fail.
Description:	Occasionally, trying to delete several messages and expunge them all at once using Netscape Messenger 4.7 causes the client to fail.
Action:	Retry the same operation. If the error recurs, restart the client and delete messages in smaller groups.
Bug 1248657	Mail sent from a machine that uses XFN instead of DNS does not always work.
Description:	XFN is a federated naming service used instead of DNS. Oracle 9iFS e-mail only supports DNS.
Action:	DNS is required for Oracle 9iFS.
Bug 1379886	Cannot delete non-ASCII folder name with Eudora 4.3.2.
Description:	It is not possible to remove folders named with non-ASCII characters using Eudora 4.3.2.
Action:	Use any other e-mail client, SMB, or the Web interface to remove the folder.
Bug 1380015	Unable to login into an IMAP account with a non-ASCII character in the name.
Description:	If user name has non-ASCII characters, logging into the IMAP server may fail. This happens if the server character set is not set correctly.
Action:	Set the Oracle 9iFS server default character set to ISO8859-1 or the appropriate multibyte character set.

Bug 1387952	E-mails sent from PINE cannot be opened in the Web interface.
Description:	An e-mail that originated from a PINE client is not viewable in the Oracle 9iFS Web interface. The body of the e-mail will not be displayed. Instead, a “404 Document not found” error is reported.
Action:	The e-mail can be viewed using any standard e-mail client suitably configured, and through Windows Explorer using Oracle 9iFS SMB.

Generic Oracle 9iFS Bugs

Bug 1929620	Binding a protocol server to a specific IP address.
Description:	For machines that support multiple IP addresses, administrators may want to run a protocol server, such as FTP or SMB, on a specific IP address.
Action:	Using Oracle 9iFS Manager, set the Service Configuration object's IFS.PROTOCOLSERVER.Localhost parameter to the appropriate IP address. For example: IFS.PROTOCOLSERVER.Localhost = 123.45.67.89
Bug 1857689	If custom classes conflict with new out-of-the-box Oracle 9iFS classes, the upgrade will fail.
Description:	If custom classes created with release 1.x of Oracle Internet File system conflict with any classes that are new in Oracle 9iFS, the upgrade to Oracle 9iFS will fail.
Action:	Prior to upgrading, the conflicting custom classes must be deleted and re-created with new names that do not conflict. The new classes added in Oracle 9iFS are: <ul style="list-style-type: none"> ■ <i>interMedia</i> Audio ■ <i>interMedia</i> AudioCdTrack ■ <i>interMedia</i> Image ■ <i>interMedia</i> Movie ■ <i>interMedia</i> Source ■ <i>interMedia</i> Video ■ MediaTextBlob ■ NodeConfiguration ■ PortletUserProfile ■ Rfc822ContentObject ■ Rfc822Message ■ ServerConfiguration ■ ServiceConfiguration
Bug 1724775	Content-based searches "OR-ed" with criteria that should also return non-indexed files will only return indexed files.
Description:	A content-based search, such as “all files containing ‘Bob’” OR-ed with an attribute search that should return non-indexed files, fails to return the non-indexed files in the search result.
Action:	Break the search into two searches, the content search and the attribute search.
Bug 1855983	Uploading multimedia files containing multi-byte data may result in invalid characters in annotations.
Description:	In a multi-byte Oracle Text-enabled installation, multi-media files (audio, video and images) are automatically annotated by the <i>interMedia</i> Annotator agent. For some installations, the <i>interMedia</i> Annotator incorrectly puts invalid characters in as the category metadata.
Action:	Change the environment variable LANG to match the native language (for example, for Korean, set LANG=ko), and restart Oracle 9iFS.

HTTP Bugs

Bug 2244721	Frontpage 2000 edit in place feature does not save files in WebDAV folder.
Description:	Frontpage 2000 edit in place on WebDAV folders is not supported in this release. The required server-side plug-in required to support this is not available.
Action:	None.
Bug 1930266	Using the drag-and-drop feature to move an XML file Into a Web folder creates an empty XML file (0-byte file).
Description:	Using the drag-and-drop feature to move an XML file (to be parsed) into a web-folder results in a zero byte file.
Action:	None
Bug 1393110	Folder names in top-level Oracle 9iFS directory are restricted.
Description:	In an Apache environment, servlet names exactly matching one or more of the first characters of the name of a top-level directory will cause the Web interface to fail. For example, if the name of the servlet is <code>files</code> , the presence of a folder called <code>files</code> will cause the Web interface to fail.
Action:	Do not create any top-level folder on Oracle 9iFS with the same first set of characters as the servlet name (by default, <code>files</code>).

Web Interface Bugs

Bug 1964796	NLS: Cannot search files using Japanese characters in Oracle 9iFS Portlet.
Description:	The character set of the Portal database must be UTF-8, or searches from the Oracle 9iFS Portlet will not work.
Action:	If the Portal character set is not UTF-8, have the user remove the search section from the Oracle 9iFS Portlet.
Bug 2268254	Multi-byte filenames under multi-byte folders cannot be renamed.
Description:	Cannot rename a file or folder that has a multi-byte name using Web Folders. The same issue causes limitations in the ability to copy files and folders with multi-byte names from one server to another through Web Folders. This is caused by problems in the handling of multi-byte characters in the HTTP header. Although the HTTP specification does not support non-ASCII characters in the header, products like Web Folders send them. The issue is a Java 1.3.1 bug on Solaris 7 and Solaris 8.
Action:	On Solaris 7 (Solaris 2.7) and Solaris 8 (Solaris 2.8), set the LANG and LC_ALL to en_US. On Solaris 2.6, set LANG and LC_ALL to C, before using <code>opmnctl</code> to start the processes. Be aware that you must have installed the en_US locale for this to work. Use the command <code>locale -a</code> to list all locales that have been installed on the machine.
Bug 2289612	Quota section of an Oracle 9iFS Portlet displays as NULL.
Description:	If users add the Quota section to their Portlets but their quotas have not been enabled by the administrator, the "Quota Used" value displays as NULL.
Action:	Enable the user's quota, or have the user delete the Quota section from the Portlet.
Bug 2276285	Cut-and-paste group members results in IFS-62017 error message.
Description:	When moving users from one group to another using cut-and-paste, you get the error message "IFS-62017: No path could be found to the original item. Try copy instead."
Action:	Rather than cut-and-paste, use copy-and-paste, and then delete the members from the original group.
Bug 1831286	Uploading very large files with the Web interface fails without any feedback.
Description:	Uploading very large documents (for example, over 100MB) via Browse in the Web interface can fail, possibly because of time-outs on the server.
Action:	Use DAV (Web folders), use FTP directly, or another protocol.

Bug 1859980	On resizing the browser window on Macintosh, right frame doesn't load.
Description:	When you grow or shrink the browser window on the Macintosh, you may notice that the tree (left) and container (right) frames do not reload.
Action:	After resizing the window, press the reload button. Note: The tree (left frame) will not retain its current state.
Bug 1860905	Cannot create a document/folder location in portlet for a folder created using high ASCII characters.
Description:	If you create a folder with high ASCII characters (8-bit characters), you cannot create a link to that folder in the Oracle 9iFS portlet.
Action:	Choose a folder name that does not contain high ASCII characters.
Bug 1831063	Occasionally, cannot login even if username/password are correct.
Description:	Stale data in the browser cache sometimes prevents users from logging into the Oracle 9iFS Web interface.
Action:	Clear the browser's cache by pressing the Shift key and clicking Reload.
Bug 1853303	Clicking does not always open the folder in the right frame.
Description:	After opening a folder using the tree (left) frame, subsequent clicking on folders in the container (right) frame may fail to display their contents.
Action:	Use the tree (left) frame to open folders and other container objects.
Bug 1104090	In Netscape, uploading a folder using the drag-and-drop function fails.
Description:	Using the drag-and-drop function in Netscape, uploading a folder and its contents will fail. This is a Netscape browser bug.
Action:	You have several options: <ul style="list-style-type: none"> ■ If the folder's contents are not other folders, first create the folder in Oracle 9iFS, then upload the folder's contents using the drag-and-drop function. ■ Upload using browse rather than the drag-and-drop function. ■ Use Internet Explorer 5.0 or above.
Bug 1244053	After entering username and password, pressing Enter causes login screen to beep.
Description:	On the login.jsp, after entering the login and password, pressing the Enter key causes a beep.
Action:	Press the Tab key to select the Login button before pressing Enter.
Bug 1248003	The text in the column heading disappears after the window is resized.
Description:	After resizing the window, the headings on the File List no longer appear, because the text is black on a black background.
Action:	This is a style sheet and browser issue. Reload the File List by clicking the current folder in the Directory Tree.
Bugs 1252587, 1106093, 1263638	Library Session times out during long uploads.
Description:	When executing tasks that require a long time to complete, such as complex searches, searches over a very large data set, or deleting a large folder tree, the connection times out and fails.
Action:	Shut down the service and increase the <code>SessionTimeoutPeriod</code> parameter in the properties file. The default value is 10 minutes. Restart the service.
Bug 1258791	Cannot apply ACLs to more than 100 items in the Web interface at one time.
Description:	A design issue in the Web interface limits the number of items you can have selected when you choose Apply ACL from the Edit menu.
Action:	Select fewer than 100 items when you are applying ACLs.
Bug 1370141	Using Netscape, upload and check-in/check-out menus overlap if the system uses small fonts.

Description:	Using Netscape browsers, if the Windows display has been set to use small fonts, the menu options in the Upload and Check-In/Check-Out menus overlap one another.
Action:	Change the font settings in the Display section of the Windows control panel to use medium or large fonts.
Bug 1372615	Using Internet Explorer, uploading a document with non-ASCII document name via the drag-and-drop function fails.
Description:	Using Internet Explorer 5.0 or 5.5 to upload a file with a non-ASCII file name via the drag-and-drop function results in an error message that the file already exists. Choosing to overwrite the non-existent file causes the filename to be truncated when the file is stored in Oracle 9iFS.
Action:	This is a known NLS bug with the FTP window in Internet Explorer 5.0 or 5.5. Either use upload via browse, or use a different protocol server to upload the file.
Bug 1374498	Non-ASCII file name is displayed as squares while viewing its parents.
Description:	For a file with a non-ASCII name, if you open the View Parents window to see all the folders in which a file appears, the file name appears as a series of rectangles.
Action:	Set your browser to ignore typefaces. For example, in Netscape, select Edit -> Preferences -> Appearance and set Fonts option to "Use My Default Fonts."
Bug 1384904, 1379837, 1374374	Using Netscape, cannot upload a file with non-ASCII characters in filename.
Description:	Using Netscape to upload (via browse) a document that has a non-ASCII filename, the upload fails.
Action:	Use Internet Explorer or a different protocol to upload the file, such as FTP or SMB.
Bug 1387938	Uploading via the drag-and-drop function may fail.
Description:	Using the FTP drag-and-drop function from the Web interface, the upload fails if the path to the server is not fully qualified.
Action:	Either fully qualify the path to the server (for example, <code>http://myserver.mycompany.com:2100</code>) or use a different protocol server to upload the file.
Bug 1399626	Uploading a file via the drag-and-drop function into a folder with a period in its name causes the file to open in Internet Explorer.
Description:	Attempting to upload a document into a folder with a period in its name causes the upload to fail. Instead of being uploaded, the file displays in Internet Explorer.
Action:	Navigating one level up from the folder (the folder with a period in its name), then back down into the folder will enable the upload to work.
Bug 1399646	Folder name with apostrophe cannot be opened.
Description:	If a folder name contains an apostrophe, you cannot open that folder in the Web interface.
Action:	Remove the apostrophe from the folder name.
Bug 1403302	Problems with theme searching.
Description:	Using theme search in the Advanced Find window causes the web server to stop responding to requests.
Action:	Do not use theme searches. (Theme indexing is turned off by default in Oracle 9iFS.)
Bug 1408308	Cannot link to specific versions of a document.
Description:	Users cannot create a link to individual versions of a versioned document.
Action:	If you want to reference a particular version of a document, you can paste and create a copy, but you cannot have a reference.
Bug 1416997	Tree frame operates incorrectly.
Description:	The tree frame gives unexpected results if a folder in the tree is renamed using a different protocol.
Action:	Refresh the browser.

Bug 1480275	Can't search for documents by language.
Description:	The File Contents criterion of the Advanced Find window allows you to specify a particular string to search on and its language. Some users may think they're specifying a language attribute to search on.
Action:	Use the Windows Utilities instead.
Bug 1524432	Changing default DAV renderer breaks Web interface.
Description:	Changing the renderer implementation for the WebDAV renderer breaks the Web interface.
Action:	Do not subclass Renderer and create a custom renderer.set.
Bug 1604545	Using UTF-8 encoded .js files causes web page error in IE for Simplified Chinese.
Description:	Much of the user interface for the Web interface is generated by Javascript code. This is a known issue with some versions of Internet Explorer.
Action:	Use only IE5.5 (5.50.4134.0600) with Simplified Chinese systems.
Bug 1872138	Folder items are sorted uppercase first, then lowercase.
Description:	When listing the items in a folder, the items are sorted case-sensitively, by name.
Action:	None.

Windows / SMB Bugs

Bug 1791830	On Windows NT / 2000, double-clicking on a Microsoft Office file with a high ASCII character in the name fails.
Description:	Double-clicking on a Microsoft Office file (.DOC or .XLS, for example) with a high ASCII character in the filename (8-bit character sets) causes a "The file could not be found" error.
Action:	Launch the Microsoft Office application and open the file from within the application, by using "File-->Open" menu.
Bug 1113581	Cannot delete or rename versioned files in SMB.
Description:	Attempts to delete or rename a versioned file in SMB result in a failure message indicating that all or part of the file may be locked. Certain applications, such as Microsoft Word and Microsoft Excel, save their work by deleting old versions of the document. Because this would cause a loss of data attributes and compromise the versioning features of Oracle 9iFS, the Oracle 9iFS SMB server does not allow deletion or renaming of versioned files.
Action:	Through Windows Explorer, right click on the versioned document and use the "Delete Versioned Document" capability of Oracle 9iFS Windows Utilities or use the Web interface.

Windows Utilities Bugs

Bug 1807421	User Profile: Keyboard shortcuts (alt+o and alt+n) do not work after authentication error.
Description:	In the Oracle 9iFS User Profile dialog, the keyboard shortcuts stop working for the fields "Old Password" (alt+o) and "New Password" (alt+n) after password authentication errors.
Action:	Use tab key or the mouse to navigate to these fields.
Bug 1728051	Oracle 9iFS "Find using Category" returns duplicate results.
Description:	If a document is associated with more than one Category, those Categories have a subclass-superclass relationship, and the user requests a search on the superclass, then each document will be duplicated in the result set.
Action:	Ignore the duplicate documents.
Bug 1416975	Missing some Oracle 9iFS operations for file with name longer than 256 characters.

Description:	In Windows NT, if you use the drag-and-drop function on a file that has a file name longer than 256 characters, some of the Windows Utilities will not work.
Action:	None. This is a Microsoft Windows limitation.
Bug 1873831	ifs Find: Memory consumption of about 200k/document.
Description:	In Windows Find, if the result set objects has too many associated Categories (even though the Category is not in the search criteria list), the Windows client allocates and holds memory (as much as to 200KB per returned object) until the user exits the Find window.
Action:	If insufficient resource problems occur, the user should limit the search to a smaller result set.

XML Bugs

Bug 2315656	Using the Commandline Utility (CUP) in a multi-byte installation, rendering an Oracle 9iFS object may fail.
Description:	Some localized attribute names may contain non-ASCII characters, which are not valid in the Commandline Utility and so cannot be rendered correctly using XML.
Action:	Set locale for your terminal session to C (English) to run <code>ifsshell (LANG=C export LANG)</code> .
Bug 1600470	Creating a user via XML with a multi-byte login fails.
Description:	By default, creating a user through XML will create the e-mail address by concatenating the <Username> and the <EmailAddressSuffix>. If the username contains multi-byte characters, then user creation fails because an e-mail address cannot contain multi-byte characters.
Action:	Explicitly set the e-mail address without multi-byte characters using the <EmailAddress> tag.